

松本市教育研修センターだより

No.46 令和8年1月31日

今までをふり返り、より良い未来のために

寒暖差の激しい日が続き、体調を崩しやすい季節ですが、先生方はいかがお過ごしでしょうか。冬休みから一気に仕事モードに切り替わり、年度末のまとめや次年度の準備に追われる中、心身共に疲れが溜まりやすい時期かと存じます。しかし、今この瞬間の歩みをふり返ることは、より良い未来を創るために欠かせない大切なプロセスです。1月も初任者研修をはじめ、キャリアアップ研修など、今とこれからの自分のあり方を問う研修がありました。改めて、今を見つめ、これからを考える時間をつくっていきましょう。

「学びの伴走者」として、子どもと共に歩む2年目に向けて

令和7年度 初任者研修 1月15日

教育文化センターに初任教員約30名が集まり、一年間の試行錯誤を振り返り、次年度への「自らのあり方」を見つめる研修会を開催しました。

センター長講話：私たちの「観・像」を問い直す

大久保センター長は、本センターが重点に置く「4つの観・像」について、子どもの学びの姿から一緒に考えました。生活科や総合で自らの学びを誇らしげに語る子どもたちの姿を通し、「教師は教え込む主役ではなく、環境を整え足場をかける『裏方(伴走者)』」と語りました。また、木村泰子先生と児童の対話映像を通し、子どもの言葉の奥底にある意味に耳を傾けること、子どもの力を信じることの大切さを改めて見つめ直しました。

生徒指導研修（有賀指導主事）：組織で支えるアプローチ

この研修では、「生徒指導とは子どもの自己実現を支える教育活動である」という本質を確認。事例演習を通じ、①個人の感覚で判断しない ②組織で情報共有する ③一秒でも早く苦痛に寄り添う、という三原則を徹底することを学びました。参加者からは「指導を『支援』と捉え直すことで、チームで対応する勇気をもらえた」との声がありました。

ワークショップ（堀内指導主事）：感情曲線で描く「私たちの軌跡」

教師としてのモチベーションの起伏を感情曲線で可視化しました。教育委員や校長会の先生方も加わり、立場を超えてこれまでの歩みを共有しました。「あの時は辛かった」「この姿があったから頑張れた！」などと語り合う中で自身の状態を客観視し、仲間の存在や自らの強みを再発見。最後には、笑顔で2年目への抱負を語り合いました。



今年度もあと二か月です。「失敗したらやり直せばいい！」「他者の力を活用」し、児童生徒と共に学びを楽しむ「子どもが主人公」の松本の教育を、共に創っていきましょう。

【参加者の感想から】

近隣の小学校で、非認知能力を大いに発揮して学ぶ児童の姿があることに非常に驚いた。自学級ではどうしても授業時数を意識してしまい、自分で授業を進めてしまうことがほとんどの様な気がする。「教え込む教員一 聞くだけの児童」という関係が固定化してしまうと、非認知能力は全く発揮されないと感じた。「私たちが考える、表現する、チャレンジするチャンスをたくさん作ってほしい」という児童の言葉が特に胸に響いた。

自分たちの「学び」をデザインする～「やらされる研修」から「やりたい研修」へ

年度末が近づき、これまでの歩みをふり振り返り、次年度のビジョンを描く時期となりました。日々の多忙感の中で、校内研修が「こなすべき業務」になってはいませんか？

研修の本来の目的は、目の前の子どもたちのために、そして私たち自身がより良い教育を実践するために「学び合う」ことにあります。そこで今回は、私たちが大切にしている「対話による研修」、立場や経験年数を越えた45分間のワークショップ型研修を考えてみました。

この研修は、形式的な報告ではなく、「本音の学びの芽」を分かち合うことがポイントです！

◎価値づけ：日常の何気ない雑談や授業の気づきを「学び」として再定義する

◎理想の構想：制約を外して「どんな場なら参加したいか」を語り合う

◎小さな一歩：来年度に向けて自分ができる具体的な行動を宣言する

「心理的安全性」を担保するグランドルールのもと、教職員一人ひとりが学びの当事者として、あたたかくも活気ある新年度への助走を、この研修から始めてみませんか？

1. オープニング：マインドセット（5分）

本日の目的：「今日は、研修の内容ではなく『研修の形』そのものについて皆さんと語り合いたいと思います。先生方が一番ワクワクし、明日からの実践に繋がると感じる自身の学びの形を、一緒に探っていきましょう。」

チェックイン：「最近、誰かと話して『あ、それ面白いな！』と心が動いた瞬間はありましたか？」を隣の人と共有。

グランドルール：否定しない、フラットなやり取り、ジャッジしない…安心して話せるように約束を決めます

2. ワーク1：これまでの「学び」を価値づけ（15分）

既存の研修の枠組みにとらわれず、実感を伴った自身の学びを掘り起こします。

○個人ワーク（3分）

問い：「この一年、会議や授業研究、あるいは日常のちょっとした立ち話の中で、『自分のためになった』『少し心が軽くなった』と感じた学びの瞬間はどこにありましたか？」

○グループ対話（12分）

ポイント：「形式的な研修よりも、放課後の雑談の方が学びが深かった」「他学年の授業をフラッと見に行った時が一番刺激になった」といった、本音の「学びの芽」を共有し合います。

3. ワーク2：理想の「学び合い」を描く（15分）

グループをシャッフルし、来年度の「あり方」を構想します。

○メンバー移動（2分）：メンバーを入れ替え、新鮮な視点を取り入れます。

○対話（13分）

問い：「もし、何の制約もなかったら、どんな校内研修（学びの場）なら参加したいですか？どんな雰囲気、誰と、どう学びたいですか？」

キーワード例：「短時間集中」「お茶を飲みながら」「失敗をさらけ出せる」「他校との交流」など。

○アウトプット：グループで「私たちが目指したい学び（研修）のキーワード」を一つ、画用紙に大きく書きます。

4. クロージング：私たちの「学び」への宣言（10分）

○全体共有（5分）

各グループが考えたキーワードを並べます。「対話」「気軽さ」「即実践」など、その学校独自の「学びのカラー」が可視化されます。

○自分への約束（5分）

問い：「来年度、同僚の先生と学び合うために、自分から始めてみたい『小さな一歩』は何ですか？」私の「小さな一歩」を言葉にしてみましょう。

（例：週に一度は他学年の教室を覗く、同僚の「良い実践」を口に出して褒める、など）

この研修について、もう少し知りたい・聞きたいと思われたら、教育研修センター堀内までご連絡ください（TEL0263-87-9909）！